



◇「ココ・シャネル」の経営精神から学んだこと

副本部長 鈴木 健之[城東支部 鈴直運送株]

先日、ある雑誌でココ・シャネルのことを目にした。彼女は、123年前に生まれ、18歳まで孤児として修道院で生活していた。また、職歴は帽子屋から出発し、洋裁店、踊り子歌手などいろいろ経験している。なかでも、帽子はカラーをベージュに拘り、フランスの上流階級を客層にした。クラス（階級制）が保たれたファッションブランドを50歳までに作りあげ、88歳で永眠。

フランスのTV局でココをモデルにした番組を作ろうとしたときに、彼女は「それは自分自身を安売りすることです。」「商業主義にのせられるのはいや、俗悪さに我慢ならないの」といったとか。彼女の口から出る言葉は毒舌に近く、周りを一切気にせず、本質だけを投げ、手短かに核心だけを主張した。この素直さが高貴な男たちを魅了し、「モードの陰に男あり」の人生を送っていた。亡くなって35年、現在のシャネルは、ビジネスのシャネルで「商業主義にのせるのはいや」と言ったココの精神は今はない。

初代の作りあげたブランドの精神は、いつしか商業主義に利用され、その強引な論理にいつもたやすく従う愛好者「これシャネルなのよ」「ジーンズ10万～20万円!」によって、その商業主義の拍車がかかる。

ところで、運送業界の経営環境は、時間とともに大きく変化していきます。力のついた会社は、資産投資・営業力強化・経営形態を強化し、リスクの大きい実運送を必要最小限にとどめ関連事業投資も盛んです。

しかし、一方では、実運送のリスクを受け止め、知恵と技を使い、創意工夫のなかで人的競争力の強い会社を作り、客が必要とするサービスを提供し対価を得る運送（物流）を担う会社もある。

「うちは〇〇運送なのよ」といったシャネルのような強烈な愛好者を作り、錬金術師になれなくても、日本中のお客が得られなくとも、一部の得意先から必要とされる会社を経営し、維持・進化させることが大切であるという考え方が、ココ・シャネルの経営精神から学ぶことができました。合理主義の下、強者はますます強くなる中で、真のサービスを提供するための知恵を出し合いたい。

壮年部も維持・進化させたいですね。



◇「公共心」

副本部長 竹内 政司[多摩支部 竹内運輸工業株]

桜、3月、卒業式。15日は長女の小学校の卒業式だった。「もう6年経ったのか」と感慨にふけりながら、校長先生から卒業証書を受け取る娘の姿を見てみると、ブカブカの制服を着て、大きなランドセルを背負った入学式を思い出し、目頭が熱くなった。

娘の通っていた小学校の理事長は、堤清二氏である。清二氏といえばセゾングループ（旧・西武流通グループ）の実質的オーナーであり、文人社長としても知られ、小説家・詩人、辻井 喬（つじい たかし）の顔も持っている。実業家としてのセゾングループ代表を辞任された後は精力的に作家活動を展開、今年79歳になられるが、今でも財団法人セゾン文化財団理事長、日本ペンクラブ常務理事、日本文藝家協会常務理事など多くの役職をこなされている。

子供たちを前に挨拶された堤理事長は、「自分で考え、自分で判断し、行動する人間になるように」、「意志の力を持つこと」、「相手の立場をおもいやることのできる想像力、社会の一員であるという公共心を持つこと」、などをお話され、巣立っていく子供たちにエールを贈った。

概を持ち、常に襟をただし、お天道様に恥ずかしくない事業活動を続けて行けば、きっとこの業界の社会的地位は向上し、素晴らしい未来を作り上げることができると確信する。「公共心」。もう一度、自分の心に問いかけてみよう。広辞苑によると公共心とは、「公共の利益を図る心。公共につくす精神」、とある。昔からいわれている「世のため、人のため」の精神だ。これは、今の世の中、とかく「自分だけがよければ、それで良い」、というような利己的な考え方がはびこる中、公共の利益を大切にし、公共のためにつくそうとする心が大切だ、という先人の教えである。

社会が我々経営者に求めていることも、この公共心ではないだろうか。企業をきちんと統治する仕組みの中で、ブレのない行動規範を持ち、プリンシプル（明確な理念・原則）を重視し、社会的責任を果たすために、法令を遵守した高潔性をもった経営を行なうことだ。

どんなに苦しい経営環境にあっても、我々経営者はもちろん、そこに働く一人ひとりが、物流という仕事を通して社会に貢献するといふ気概を持ち、常に襟をただし、お天道様に恥ずかしくない事業活動を続けて行けば、きっとこの業界の社会的地位は向上し、素晴らしい未来を作り上げることができると確信する。「公共心」。もう一度、自分の心に問いかけてみよう。

《百文字のひろば》

王ジャパンのWBC世界一、テレビを見ながら大声で応援、これが終わるとペナントレース。今年度も決算月、昨今、景気回復基調だとか（実感わかないなあ～って、大分脱線）もう一度大声で、フレ～、フレ～日本。

山田 正信[足立支部 榊森田商運]

今、学校教育が見直されている。いわゆるゆとり教育の措置による小中高生の学力低下である。世界でも有数の日本民族が国の教育方針の失敗で地に落ちてしまった。その世代の人々を社会で教育し、社会人として成長させるには、「一人の人間としての魅力」いわゆる社会人としての矜、社会教育を行う事が経営者としての姿勢であり会社を成長させる条件である。

鈴木 三津雄[葛飾支部 青戸運送株]

最近、横文字の氾濫について気になる。報道などでも、英語をそのまま羅列しているのではないかと思うときがある。外来語として認知されていないうちに使われ、本当の意味も分からずに使われていることもある。自戒を込めて、言葉の使い方に気をつけたいものだ。

斉藤 彰悟[荒川支部 エスエイロジテム株]